管理番号 ： N0-9432101

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	マイクリーナ
会社	日本曹達株式会社
住所	〒100-8165 東京都千代田区大手町２－２－１
担当部門	化学品事業部環境化学品部環境化学品課
電話番号	03-3245-6148
FAX 番号	03-3245-6248
緊急連絡先情報	化学品事業部環境化学品部環境化学品課
電話番号	03-3245-6148
SDS 作成日	1996 年 04 月 23 日
SDS 改訂日	2021 年 11 月 11 日(07 版)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性	急性毒性（経口）	区分 3
	皮膚腐食性／刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1（呼吸器）
	誤えん有害性	区分 1
環境有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分 3

ラベル要素

絵表示（GHS JP）





注意喚起語（GHS JP）　：　危険

危険有害性（GHS JP）　：　飲み込むと有毒
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
重篤な眼の損傷
臓器の障害（呼吸器）
水生生物に有害

注意書き(GHS JP)

安全対策　：　粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
取扱い後は手、顔 をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

応急措置 ： 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保管 ： 施錠して保管すること。

廃棄 ： 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 ： 混合物

一般名 ： 水酸化カリウム及び水酸化ナトリウムを含む化学洗浄剤

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
水酸化カリウム	75	KOH	(1)-369	なし(公表化学物質扱い)	1310-58-3
水酸化ナトリウム	20	NaOH	(1)-410	なし(公表化学物質扱い)	1310-73-2
トリポリ燐酸ソーダ	5	Na5P3010	(1)-497	なし(公表化学物質扱い)	7758-29-4

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合 ： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 ： 汚染された衣類、靴を直ちに脱ぐこと。
多量の水で洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合 ： 水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合 ： 水で口の中をよく洗う。
無理に吐かせてはいけない。
直ちに医師に連絡すること。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療	：	対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	：	周辺火災に適した消火剤 本品は不燃性である。
使ってはならない消火剤	：	情報なし。
火災危険性	：	加熱により危険有害性ガスを放出することがある。
消火方法	：	火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 消火作業は風上から行う。 周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。 移動できない場合、容器に放水し、冷却する。 本製品に直接水を掛けてはならない。
消火時の保護具	：	加熱により危険有害性ガスを放出することがある。 自給式呼吸器および化学物質用防護服を着用する。 風上に立ち蒸気を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置	：	作業の際は、保護具を着用する。保護具については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照の事。 人を退避させ、飛散・漏出した周辺にロープを張り、「立入禁止」の措置を行う。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 十分な換気を確保する。 風上から近づく。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	：	排水溝または水路への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法	：	漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。必要なら砂等をまいてできるだけ回収する。
	：	回収した跡、又は回収できないものは散水して溶解した後、希塩酸、希硫酸等で中和した後、多量の水で洗い流す。洗い流す場合、濃厚な廃液が下水河川等に流入しないよう注意する。また、中和の際は発熱し、飛沫が生じることがあるので注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	：	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項	：	作業の際は、保護具を着用する。保護具については「8.ばく露防止及び保護措置」を参照の事。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 取扱い後はよく手、顔 を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 十分な換気を確保する。 他の容器に移し替えないこと。 本製品を水に溶かして使用する場合、発熱するため、必ず水を張った容器に少量ずつかき混ぜながら加えて溶かす。 本製品をトラップ中に投入して使用する場合、これに水を注ぐ時、飛沫が跳ねるので、保護具を着用し充分に注意して作業を行う。また熱湯を注ぐと沸騰状態になり飛沫が飛び散るおそれがあるので、常温の水を使用する。 塩ビ製のトラップや蛇腹管は、反応熱で変形するおそれがあるので使用しない。他の用途には絶対に使用しないこと。
接触回避	：	「10.安定性及び反応性」を参照のこと。

保管

安全な保管条件	：	施錠して保管すること。 子供の手の届かないところに置くこと。 医薬用外劇物であり、盗難・紛失の際は、警察に届け出ること。 強アルカリであるので、酸性物質と同じ場所に貯蔵又は保管しない事。 強アルカリに耐えるコンクリート床の場所で貯蔵する。 吸湿性が強く、空気中の湿気や炭酸ガスを吸収し品位が低下する。そのため、密封して直射日光の当たらない、換気の良い乾燥した屋内に保管する。
安全な容器包装材料	：	データなし

8. ばく露防止及び保護措置

《水酸化カリウム のデータ》

厚生労働省

管理濃度	：	設定されていない

日本産業衛生学会

許容濃度(産衛学会)	：	2mg/m3
年度	：	2020

ACGIH

許容濃度(ACGIH)	：	TWA -,STEL C 2 mg/m3
年度	：	2021

《水酸化ナトリウム のデータ》

厚生労働省

管理濃度	：	設定されていない

日本産業衛生学会

許容濃度(産衛学会)	：	2mg/m3
年度	：	2020

ACGIH

許容濃度(ACGIH)	：	TWA -,STEL C 2 mg/m3

年度	：	2021
設備対策	：	屋内使用の場合、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、シャワー・洗眼器を設置する。
呼吸用保護具	：	防塵マスク
手の保護具	：	ゴム・塩ビ等の不浸透性手袋
眼の保護具	：	ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	：	ゴム製前掛け、ゴム長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	：	固体
形状	：	フレーク状
色	：	白色
臭い	：	無臭
pH	：	強アルカリ
融点	：	データなし
凝固点	：	データなし
沸点	：	データなし
引火点	：	該当せず（不燃物）
自然発火点	：	データなし
分解温度	：	データなし
可燃性	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
相対密度	：	0.85 （嵩比重）
密度	：	データなし
相対ガス密度	：	データなし
溶解度	：	水: 52 % 良く溶ける。溶解時に発熱する。
n-オクタノール/水分配係数（Log Pow）	：	データなし
爆発限界（vol %）	：	データなし
動粘性率	：	データなし
その他の性質	：	潮解性 あり。金属腐食性 データがないため、GHS 区分は、分類できないとしたが、本品はアルミニウムを腐食する。洗面器、食器類を近づけない。
粒子特性	：	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	：	酸と激しく反応し、中和熱を発生する。 湿気や水と接触すると発熱することがある。
化学的安定性	：	通常の取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	：	湿気や水分があると亜鉛、アルミニウム、すず、鉛等の金属と反応して可燃性の水素を発生し、爆発することがあるので注意する。
避けるべき条件	：	直射日光。高温。熱。水、湿気。
混触危険物質	：	酸。
危険有害な分解生成物	：	データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）　：　飲み込むと有毒
加算式から区分 3 とした。

急性毒性（経皮）　：　分類できない

急性毒性（吸入）　：　区分に該当しない(分類対象外)(気体)
分類できない(粉じん、ミスト)

マイクリーナ	
LD50 経口 ラット	《水酸化カリウムのデータ》LD50：273mg/kg
LD50 経口	《水酸化カリウムのデータ》LD50：325mg/kg（ｳｻｷﾞ）：ヒトでの中毒実例より、ヒトの体重を 60kg とすると致死量は 80mg/kg～167mg/kg（固体カセイソーダ）となるため、区分 3 と判断した。〔＊06〕

皮膚腐食性/皮膚刺激性　：　重篤な皮膚の薬傷
主成分が区分 1 の水酸化カリウム及び水酸化ナトリウムであるため、区分 1 とした。皮膚刺激性:《水酸化カリウムのデータ》強い腐食性 （ｳｻｷﾞ）。《水酸化ナトリウムのデータ》いずれの濃度でも壊死を伴う強い腐食性 （ﾌﾞﾀ） (2N(8%),4N(16%),6N(24%)を塗布）。〔＊01〕。ヒト皮膚に対して 0.5%以上で刺激を引き起こす。ブタ皮膚に対し 8%以上で腐食性を引き起こす〔＊02〕。ウサギ皮膚に対して５％ 4 時間で十度の壊死を引き起こす。〔＊03〕

マイクリーナ	
pH	強アルカリ

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：　重篤な眼の損傷
主成分が区分 1 の水酸化カリウム及び水酸化ナトリウムであるため、区分 1 とした。眼刺激性：《水酸化ナトリウムのデータ》刺激性なし(0.2%以下)、軽微な刺激性(0.4%)、腐食性(1.2%) （ｳｻｷﾞ） (濃度 0.004%、0.04%、0.2%、0.4%、1,2%ﾃｽﾄ) 〔＊04〕。ヒト眼に対して重篤な損傷を引き起こす。ウサギ眼に対して 1.2%以上で腐食性を引き起こす。〔＊05〕

マイクリーナ	
pH	強アルカリ

呼吸器感作性　：　分類できない

皮膚感作性　：　分類できない

生殖細胞変異原性　：　分類できない

発がん性　：　分類できない

生殖毒性　：　分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)　：　臓器の障害（呼吸器）
主成分が区分 1(呼吸器)の水酸化カリウム及び水酸化ナトリウムであるため、区分 1(呼吸器)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)　：　分類できない

誤えん有害性　：　飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
区分 1 の水酸化カリウムを 75%含有するため、区分 1 とした。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性　短期（急性）　：　水生生物に有害
水に溶けてアルカリ性を示すので、動物や植物に有害な影響を与えることがある。

水生環境有害性　長期（慢性）　：　分類できない

マイクリーナ	
LC50 - 魚 [1]	《水酸化カリウムのデータ》LC50：80mg/L（western mosquitofish、96hr）
LC50 - 魚 [2]	《水酸化ナトリウムのデータ》LC50：160mg/L（金魚、24hr）〔＊07〕、LC50：189mg/L(Luucicus idus melanou、48hr）〔＊08〕、LC50：125mg/L（ｸﾞｯﾋﾟｰ、96hr）〔＊09〕、LC50：125mg/L（ｶﾀﾞﾔﾝ、24hr）〔＊02〕

残留性・分解性

マイクリーナ	
残留性・分解性	データなし

生体蓄積性

マイクリーナ	
生体蓄積性	データなし

土壌中の移動性

マイクリーナ	
土壌中の移動性	データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性　：　分類できない
オゾン層への影響　：　モントリオール議定書に指定された物質を含有しない。
その他の有害な影響　：　追加情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物　：　内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
処理を外部に委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
必ず多量の水の中に少しずつ溶かした後、希硫酸、希塩酸等で中和し、多量の水で処理する。

汚染容器及び包装　：　容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	：	IMO の規定に従う。
航空規制情報	：	ICAO/IATA の規定に従う。
国連番号	：	3262
正式輸送品名	：	その他の腐食性物質（無機物）（固体）（アルカリ性のもの）
国連分類	：	8
容器等級	：	II
海洋汚染物質	：	非該当

国内規制

海上規制情報	：	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	：	航空法の規定に従う。
特別な輸送上の注意	：	荷役中の取扱いは慎重丁寧に行い、転倒・落下・衝撃等により容器を傷め、内容物を飛散させてはならない。 輸送中は、直射日光や雨水の浸透を防止するため、被覆すると共に、容器を動揺、摩擦、転倒、落下が起こらないように積載・輸送する。
	：	休憩時等の保安、盗難、紛失に注意する。 車両に積載する場合、酸類から遠ざける。又、有機薬品の上に積み重ねてはならない。積み荷の高さは、３ｍ以下とする。 １ｔ以上の量を車両で運搬する場合で、運送を業者に委託するときは、名称、成分及びその含有量並びに数量並びに事故時の応急措置を記載した書面を交付する。
その他の情報	：	補足情報なし。

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	：	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２、施行令第１８条の２第１号、第２号別表第９） 水酸化ナトリウム （政令番号 ： 319) 水酸化カリウム （政令番号 ： 316) 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第１号、第２号別表第９） 水酸化ナトリウム 水酸化カリウム
毒物及び劇物取締法	：	劇物（指定令第２条） 水酸化ナトリウムを含有する製剤 水酸化カリウムを含有する製剤
水質汚濁防止法	：	指定物質（法第２条第４項、施行令第３条の３） 水酸化ナトリウム 水酸化カリウム
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	：	非該当

16. その他の情報

引用文献 ： The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data, 2nd ed. vol.2,p. 2904(1988)
毒劇物基準通知表 改訂増補版, pp.40,42 (1991)
〔＊01〕Srikrishna et al. In Vitro Toxicology 4, 207-215
〔＊02〕Screening Information Data Set(2005)
〔＊03〕PATTY's Toxicology 5TH(2001)
〔＊04〕Morgan et al., Food Chem. Toxicology, 25, 609-613
〔＊05〕ＧＨＳに対応したMSDS（日本ソーダ工業会）,2007
〔＊06〕Screening Information 5th(2001)
〔＊07〕Jensen RA, Simplified Bioassay using finfish for estimating potential spill damage, Proc. control of hazardous material spills, 104-108. Roclvill, MD(1978)
〔＊08〕Juhnke et al.,Z. Wasser abwasser Forsch,11,161-164(1978)
〔＊09〕Wallen et al,Waters Sewage Ind.Watster,29,695-711

記載内容は現時点で入手できた資料、情報データに基づいて作成していますが、
含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものでは
はありません。又、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、利用してください。

中毒したときの緊急連絡先

公益財団法人　日本中毒情報センター（事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る）

中毒１１０番	一般市民専用電話	（大　阪）	072-727-2499（情報料無料） 365 日 24 時間対応
		（つくば）	029-852-9999（情報料無料） 365 日 9～21 時対応
	医療機関専用有料電話	（大　阪）	072-726-9923（1 件 2000 円） 365 日 24 時間対応
		（つくば）	029-851-9999（1 件 2000 円） 365 日 9～21 時対応

医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、
情報料 1 件につき 2,000 円を徴収します。